

逗子市 郷土資料館 だより

平成5年7月1日 発行

NO. 2

昨年末に発行いたしました郷土資料館だよりNO. 1に続いて、NO. 2を発行することになりました。今回から、収蔵品の解説と発掘により出土した遺物の用語の解説を中心として、縄文時代から中世までを順次説明していきたいと思っております。今回は、縄文時代の石器類を中心としました。

縄文時代は、主に縄文土器、打製石器・磨製石器、弓矢が使用されていた時代で、紀元前後まで数千年続いた時代で、生活としては、鹿・猪などの狩猟、漁撈、貝や木の実の採集が中心の時代です。縄文時代は、往々集落が台地上に営まれ、共同体において抜歯・屈葬・土偶などが存在する呪術的な性格の強い、身分の上下関係が存在しない社会でした。

逗子市では、縄文時代の遺跡は非常に少ないのですが、沼間や披露山などから縄文時代の遺構や遺物が出土しています。これらの遺跡から出土した、石器について簡単に説明していきたいと思えます。

尖頭器 (せんとうき)

先端が鋭く尖り、刺突の機能を持った木葉型に整形された石器で、木の柄の先に取り付けられ遠投具（投げ槍）として使用しました。尖頭器が使用されたことで、狩猟具の飛躍的進歩が見られました。



1. 披露台遺跡
2. 沼間台遺跡
3. 持田遺跡

石 鏃 (せきぞく)

弓の矢じりとして使用された石器を石鏃とよびます。

石鏃には打製の物と磨製の物とがあります。縄文時代は打製石鏃の使用に限られています。形態としては、三角形・ひしがた・ハート形とさまざまな種類があり、木の枝の先に装着して使用します。石鏃の材料は黒曜石で作られています。黒曜石は火山岩のひとつで、北九州・長野県の和田峠・神津島・北海道の十勝岳と産地が限られており、産地により石質が違うことから、黒曜石製の石器の分布により古代の交易を知る手掛かりとなります。

礮 器 (れっき)

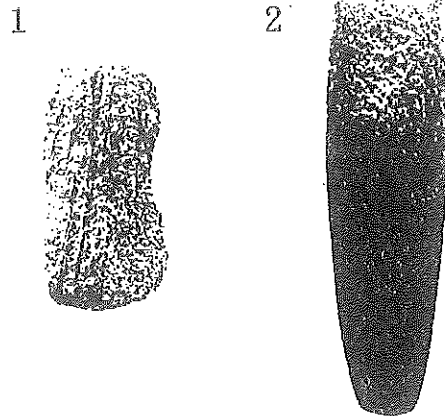
ちょうど手のひらに納まる程度の河原石や海礮を用いて、礮の形を変えない程度に一端を両面から打ち欠いて歯を付ける加工を加えた石器です。木材の伐採や丸木舟を作るための木工具として使用されたと思われまます。



披露山遺跡

石 斧 (せきふ)

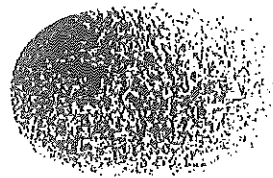
縄文時代に盛行した石器で、^{だ せいせきふ}打製石斧と^{ま せいせきふ}磨製石斧があります。打製石斧は石を打ち欠いて歯をつけたもので、木の柄に装着して使用し主に土堀や芋・球根の採取のための道具として使用されました。磨製の石斧は、あらかじめ石を適当な大きさに打ち欠いておき、石の片側もしくは両側に磨いて歯をつけたもので、打製石斧と同様に木の柄に装着して、主に裁断具・削具として使用されました。



1. ^{ひろ だい}披露台遺跡
2. ^{ぬま だい}沼間台遺跡

くぼみ石

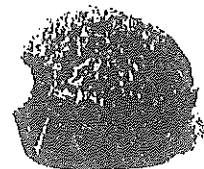
こぶし大の石の片面または両面の中央にくぼみをつけた石器。くぼみが1～2個のくぼみを持つものは、指掛け程度のもので叩石として、クルミなどの堅果をつぶしたりする役目を持ったものです。



^{ぬま だい}沼間台遺跡

石 錘 (せきすい)

^{ぎょう}漁撈用のおもりとして用いられた石器です。扁平な小礫の両端を打ち欠いたり、すりこんだりして、縄掛けのための糸がかりを作って使用しました。



^{しんじょくひろ}新宿披露遺跡

(文化財専門員 宮坂 淳一)

*訂正とお詫び

郷土資料館だよりNO. 1の記載で裏面の16行目の「…その後香蔵寺のあとに建てられたのが小坪寺ですから…」という内容は、香蔵寺ではなく^{ほうしんいん}報身院の誤りでした。訂正しお詫びします。

1993年(平成5年)7月1日 発行
逗子市郷土資料館だより NO. 2
編集発行者 逗子市郷土資料館
逗子市磯山8丁目2275番
電 話 0468-73-1741
© 逗子市教育委員会 1993